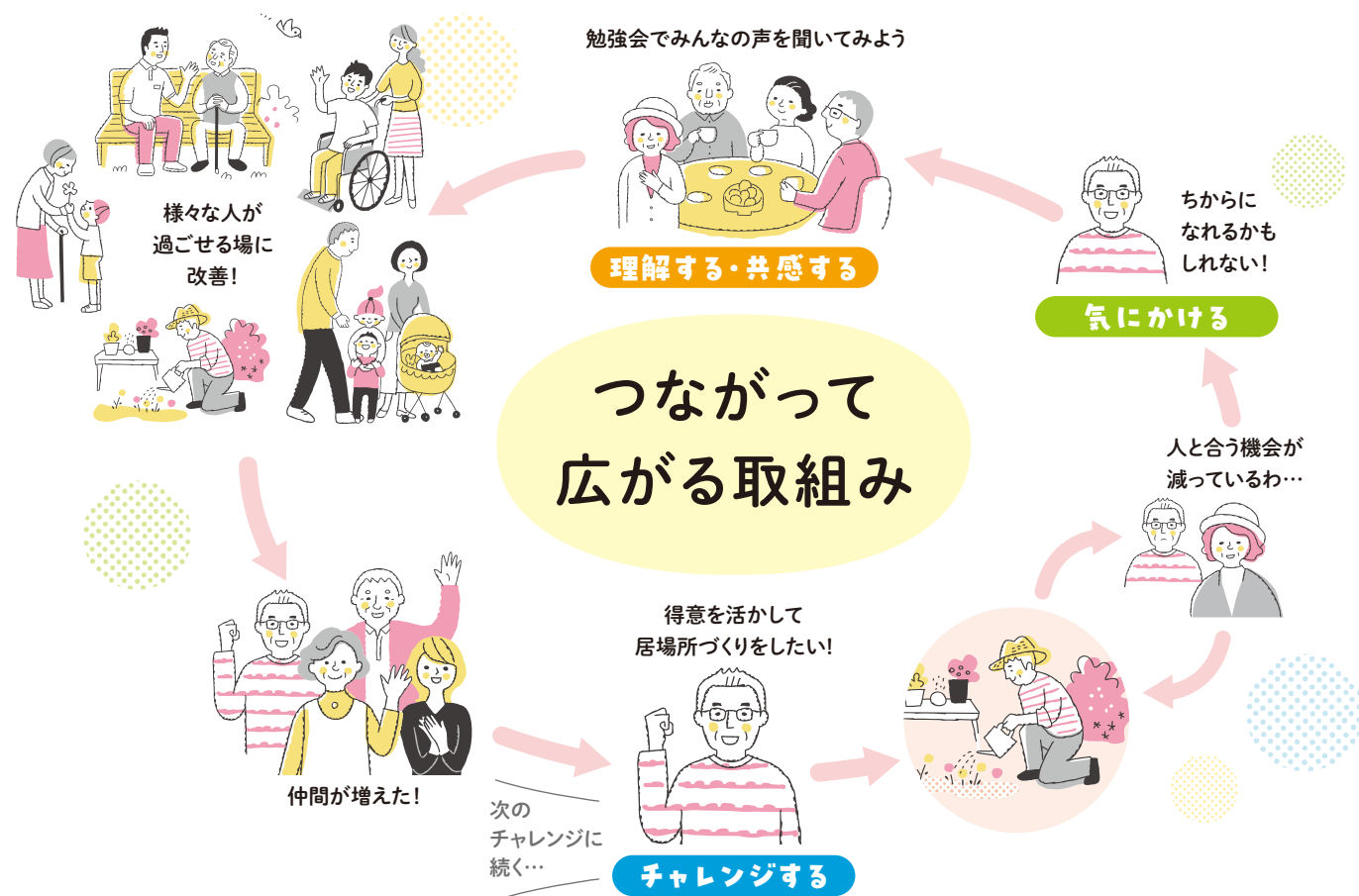




実際にうまれた活動を紹介!



みどりの居場所 ～オープンカフェ～

得意なこと、好きなことで活動

令和3年5月に開催した「～花で地域と人を彩る～ プチ農園×福祉ボランティア養成講座」受講生の皆さんが集まって、コロナ禍でも高齢者が地域社会で役割を持って、密を避けながら気軽に外出したり、他者と交流を持ったり、自身の力を発揮できる場になればと、下京総合福祉センター内のガーデニングスペースを活用し、園芸活動を始められました。屋上テラスでは花やハーブの栽培や手入れだけでなく、誰もが参加できるみどりの居場所“オープンカフェ”を開催。栽培したハーブを使ったオリジナルハーブティを提供し、「ハーブの香りに癒やされますね」と、訪れた地域の方々と楽しいお喋りに花を咲かせています。



泥んこフェス&フラワーフェス

下京総合福祉センターの花壇では、地域のボランティアと一緒に年2回、植替え作業をしています。昨年度から“フェスティバル”と名付け、多世代&他分野交流イベントとして開催しています。



サロン de 足湯 @下京デイサービス

下京デイサービスセンターの浴室からハーブのいい香りがしたら、“サロン de 足湯”のオープン日です。何らかの理由で長らく入浴ができていない方や入浴へのハードルがある方へ、楽しい入浴の機会を提供しています。



育てたハーブが焼き菓子に!?

就労継続支援B型事業所ジョイント・ほっとに育てたハーブを提供し、ジョイント・ほっとの製品に活用されています。写真は、ローズマリーパナナケーキとレモンミントクッキーです。人気があるそうで、なかなか買えない商品だとか…。ぜひ、販売しているのを見かけた方がおられたら、ご賞味ください。

第Ⅴ期 下京区地域福祉活動指針

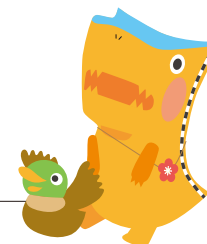
概要版

活動者の想いから見る下京区
想いを重ねて、つみあげて…



第Ⅴ期 地域福祉活動指針(計画)のテーマ

下京で暮らす様々な人が愛着を持ち
つながりあえる福祉のまちづくりを進めよう



社会福祉法人 下京区社会福祉協議会

〒600-8166
京都市下京区花屋町通室町西入292
京都市下京総合福祉センター内
TEL: (075) 361-1881 FAX: (075) 361-1663

◆地域福祉活動指針(計画)とは

『地域福祉活動指針(計画)』は、地域社会にある住民の暮らしや福祉の課題を解決することを目標として、地域住民・地域福祉活動を行う関係機関や団体、社会福祉事業を実施する施設や機関との協働、行政とのパートナーシップのもと、社協が中心となって策定する民間の計画です。



気にかける

地域の福祉活動を気にしてみよう！

地域にある、ヒト・モノは日々変化しています。地域の様子、住まう人々の様子に目を向け変化を気にかけることで、悩みや困りごとを抱え、孤立している人を取りこぼさない取組をすすめます。また、今ある地域活動に関心を持ってもらえるような情報発信や、活動を通して身近な地域について考えることができる機会を作ります。

地域福祉の現状、課題等

課題

- 町内会に入らない人が増えた
- 住民意識の温度差、無関心
- 宿泊施設が増加している
- 活動を知ってもらい機会が少ない
- 居住する人を把握できない
- 地域で生活課題が見えにくい

可能性

- 新しい住民が多いかも！
- 知らないからこそ出会う機会を！
- 周知次第で、関心を寄せてもらえる？
- 一人で悩んでいる人が居かも
- 企業との連携のチャンス？
- 対象によって周知方法を変えられる？

地域福祉活動指針の推進に向けた取組みのイメージ



事務局の強化取組み

地域福祉に関心をもってもらえるような、活動の見える化(周知・啓発)に取組みます。



理解する・共感する

理解し、共感の輪を広げよう！

様々な人と時間や場を共有し、共に過ごすことで、ヒトそれぞれの背景や価値観を知ることができます。知って、理解し、想いや考えを共有することで、地域福祉活動の裾野を広げる取組を進めます。

地域福祉の現状、課題等

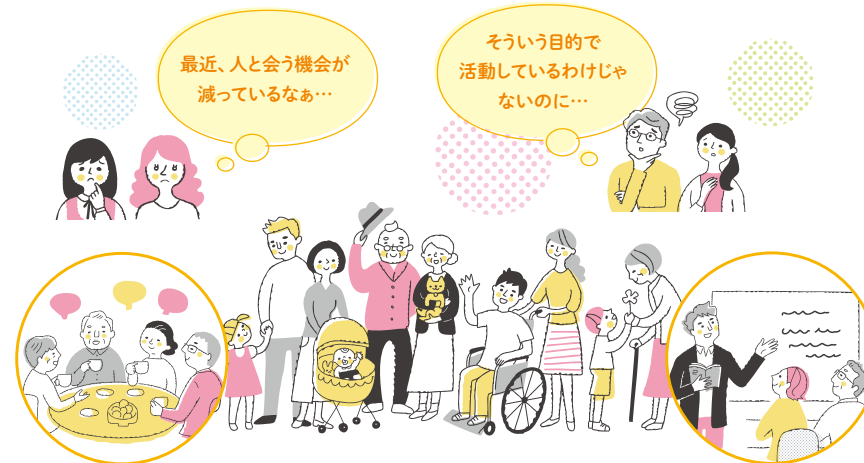
課題

- 地域で孤立する人の存在
- SOSを出せない人の存在
- 顔を会わせてしゃべる場が減っている
- 活動者の想いを知ってもらえていない
- 住民の多様化とグローバル化

可能性

- 耳を傾けることからの理解
- 困りごとを抱えた人への正しい理解
- 活動のアイデアが眠っているかも！
- 知ることによって共感できタネが見つかる
- 様々な意見を取り入れられる！

地域福祉活動指針の推進に向けた取組みのイメージ



事務局の強化取組み

属性を問わず、多様な人が多様なテーマで集まる場、『タテヨコナメ マチノコト わーくしょっぷ』を開催し、出会える場づくりを行います。



チャレンジする

社会参加のカタチを考えよう！

従来の分野対象別の取組だけでなく、多様な人々が、多様な形で参加できる方法を検討します。いきなり大きなことは難しいので、小さなことからコツコツと段階を踏みながら、楽しく、魅力的な活動作りにチャレンジします。

地域福祉の現状、課題等

課題

- 活動の財源の減少
- 参加者の固定化
- 担い手の減少
- 施設や支援者が地域に点在している
- 住民の興味・関心がわからない

可能性

- 今ある財源の大事さがわかる
- 参加することの安心感がある！
- 多様な人に声をかけることができる
- 専門職と連携できるチャンス！
- とともに活動を作りあげるチャンス！

地域福祉活動指針の推進に向けた取組みのイメージ



事務局の強化取組み

財源の確保のため、①企業向け賛助会員募集の強化、②広報紙への広告掲載の募集、③賛助会費、共同募金、寄付金の活用の見える化、④他団体が実施する助成金の活用を進めます。

第V期下京区地域福祉活動指針(計画)で大事にしていく視点

関係性の視点の転換

従来の地域福祉活動では、「支える人」と「支えられる人」の立場が明確に分かれていました。これからの地域福祉活動を考えていく上で、「支える人」「支えられる人」の立場を超えて関係性を構築できるように工夫が必要です。

小さな変化を受け止める

活動していると、参加者が少ないことや、費用対効果を見ると活動を継続していくことが難しいという問題に直面することがあるかと思います。そういったときに、小さくてもいいので、成果や手ごたえを確認し、担い手同士が喜び合うことで、次の活動へのモチベーションを維持することができます。活動をすることで、小さな変化を見つけ、受け止めることが、今後の活動のポイントです。



1人1人の力を信じて任せる

地域にいる様々な人の得意なことや「出番」や「居場所」を作ること、様々な人が地域で活躍できる場を作ることができます。任せるところは任せることで、地域福祉活動の負担感の軽減が期待できます。そういった活動を繰り返していくことで、地域福祉活動の裾野を広げることができます。

楽しい場の共有

地域福祉活動は「困難な課題を抱える難しい活動」と捉えられがちで、活動の担い手の負担感だけが注目されがちです。楽しい活動や楽しい場を共有することで、地域福祉活動への関心が広がります。また、活動をやるからには最初から大きく成果を求めがちですが、気負わず、小さくスタートし、成果や手ごたえを共有し合いながら、大きくしていく視点が大切になってきます。

